

# Voters

## 特集 参議院選挙

- ▶ 参議院選挙の意義
- ▶ 18歳選挙権と「19歳の壁」
- ▶ 「政治分野における男女共同参画法」と参議院選挙
- ▶ 子どもと一緒に投票所へ
- ▶ 参議院議員の選挙制度の概要

城本 勝(元NHK解説副委員長) 4  
山本 健太郎(北海学園大学) 6  
大澤 貴美子(岡山大学) 8  
編集部 10  
編集部 12

巻頭言 各党は国会・参議院の改革論を  
野中 尚人(学習院大学) 3

コーナー 情報フラッシュ「ご当地めいすいくん」 2

報告 啓発活動の事例 14

報告 いかにか若い人たちを政治の場にいざなうか(上)  
宇野 重規(東京大学) 18

コーナー 海外の選挙事情  
タイ総選挙 21

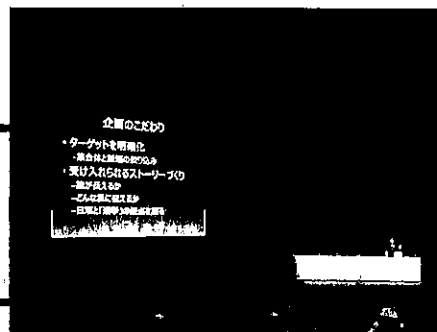
レポート 西新宿の町をよりよくしよう -総選挙-  
清水 仁(新宿区立西新宿小学校長) 22

レポート 選挙出前授業を紹介する動画の作成 25



# 啓発活動の事例

## 全国フォーラムでの事例紹介から



明るい選挙推進協会は2月27日と28日に東京都内において、総務省との共催で「全国フォーラム」を開催しました。全国から約200人の明るい選挙推進協議会の委員と選挙管理委員会の啓発担当者が参加しました。1日目は都道府県指定都市の明推協会長等と選管職員による「常時啓発の活性化」をテーマに意見交換を行いました。2日目は東京大学教授の宇野重規さんによる「いかに若い人たちを政治の場にいざなうか」をタイトルとする講演（18頁に掲載）と、取手市選管、若者啓発グループ「投票促進委員会KU」、東京都選管の活動事例の報告がありました。ここでは活動事例の概要をご紹介します（編集部による抄録）。

### 「動画による若年層への選挙啓発」 取手市選挙管理委員会（茨城県）



若年層により効果的な啓発を行うために、まず選挙啓発に関する情報を広範囲に発信して知ってもらう必要

がある。多くの若者が動画サイトやSNSを利用するので動画を作成して配信することにし、若者が共感できる内容にすることを目的に高校生との共同制作にすることにした。協力依頼を、市選管が毎年出前授業を行っている、主権者教育に積極的な取手聖徳女子高校にした。同校は教員ブログや学校長インスタグラムといったように情報発信にも積極的である。高校生の目線で選挙に着目したストーリーを作成してもらい、出演もしてもらうことで、若い世代に選挙に行こうと思ってもらえるような作品を目指した。

### 制作

2018年7月の協議で大まかな部分を決め、9月にシナリオについて話し合い、10月には生徒も交えて撮影に向けての細かな調整をして、撮影を同校内で行い、茨城県議選告示日の11月30日に公開した。シナリオ立案を放送部、出演を演劇研究部、撮影補助を生徒会が担った。

打ち合わせでは、プロのクリエイターがシナリオの流れ、演技、撮影に関するプレゼンテーションをした後、絵コンテに起こしたシナリオで、学校としてNGな言葉遣いがないかを確認した。当初は5分間程度の動画をつくる予定だったが、視聴者が飽きないように1～2分程度の動画を複数本つくることにした。生徒が多忙でシナリオ作成に時間がかかったが、期待以上のシナリオができ上がった。撮影当日にもせりふに修正をかけ、キャッチフレーズを入れようと追加シーンを撮るなど、柔軟に対応した。

キャッチフレーズシーンの撮影には演劇研究部以外の生徒も参加した。当初遠慮していた生徒も徐々に積極的に参加して一体感が生まれ、なごやかで明るい雰囲気の中で撮影を終えた。生徒が積極的に撮影補助に当たったこと、コミュニケーションをよくとったこと、そして生徒の演技力が加わり、撮影は予定通り一日で終えた。制作の大部分が高校の協力があって成り立つものなので、どのような高校に協力を依頼するのかというのは重要である。

### 5作品の概要

「お誕生日編」は、18歳になって選挙権を得たが投票参加意欲の低い生徒に対し、同級生が若者の投票率が低いので、若者の意思表示のために投票に行こうとよびかける。「候補者の情報入手編」は、誰に投票していいか判断できないので候補者の顔で選ぶという生徒に、同級生がマニフェスト、選挙公報、新聞など候補者情

報の入手方法を教える。「投票用紙編」は、投票の予行演習として投票用紙に模様などを書き込む生徒に対して、同級生が投票における決まりごとを説明する。「投票のしかた編」は、当日の投票所での投票の流れ、投票所入場券をなくしてしまった場合の対処などを取り上げる。「期日前投票編」は、投票日当日に予定があった投票に行けないという生徒に、同級生が期日前投票を説明する。

#### 動画の活用

市ホームページでの紹介、駅前にある公共施設モニターでの放映、市内の高校へのDVD配布などを行い、新聞5紙とNHK水戸放送局のニュースでも取り上げられた。県議選に合わせて制作し、活用したがこれで終わりとは考えていない。30年度の選挙出前授業で、東京都選管作成のアニメ動画を利用したところ生徒の反応がよく、職員による一方通行の説明よりも映像の力を活用することが大変有効であると感じた。今回制作した動画を活用し、出前授業の内容をブラッシュアップしたいと考えている。

高校生と共同で制作した過程で、生徒も選挙について考える機会となり、選挙が身近に感じられたという声もあった。参加した生徒は、今後、投票に行ってくれるのではないかと感じている。他校から啓発動画に参加してみたい、動画の制作以外で何かやってみたいなどという声が期待できると思っている。常時啓発から選挙時啓発、そして常時啓発と切れ目なく啓発ができるように、選管職員も研さんを重ねて選挙啓発を推進していきたいと思っている。(発表は取手市選管の松崎剛さん、石坂麻美さん、沖瀧博亮さん)

[https://www.city.toride.ibaraki.jp/soumu/shise/senkyo/keihatudouga\\_senkyoikou.html](https://www.city.toride.ibaraki.jp/soumu/shise/senkyo/keihatudouga_senkyoikou.html)

### 「大学での期日前投票所の運営等について」投票促進委員会KU

団体名のKが久留米、Uがユニバーシティの略で、福岡県久留米市にある久留米大学の学生



が参加している。同大地域連携センターが、18歳選挙権導入を受け、地域貢献の一環として若者啓発グループ

をつくり、参加者を募った。選挙時には、久留米市選管から選挙啓発サポーターに認定されている。選管などとのやりとり、企画については地域連携センターがサポートするが、実践については学生が考えている。

#### 活動内容と学び

学生は最初から積極的に活動したのではなく、一つ一つ壁を乗り越えた。例えば選管と一緒に学内でチラシ配布した際に、とても内気な学生が「配っているときにじゃまっばい顔をされた、こんなに一生懸命やってるのに」と言う。相手がどう思うか、心を動かせるかが大事で、どうにかしたいという気持ちが伝わると相手の心は動く。どういうふうに活動したら、若者がどう変わるのかを学んだ。「いちご姫」という高校生の地元アイドルと一緒に活動したときには、「わっ、いちご姫がいる」と若者たちが注目するので、そこで投票促進委員会KUがチラシを配布する。コラボすることで若者に目を向けさせるという手段を考えた。

#### 期日前投票所での活動

期日前投票所が久留米大学に設置されている。大学に設置することによって投票しやすくなるだろうとの学生の発案によるもの。学生が選挙事務従事者と投票立会人のほとんどを担い、選管職員も少し入る形で運営している。従事者と投票立会人に関しては決められた額の報酬を受け取り、前日の準備、設置、当日の投票所や駐車場での案内などは無償で行っている。2016年の参院選では約200人、2017年の衆院選では約520人が利用した。

#### 学生の思い

投票促進委員会KUの活動は、選挙の重要性を学生や一般の方に感じてもらうきっかけになったと思う。18歳選挙制度が導入されたとき